

9月 月例会報告

【日 時】令和 7年9月27日 (土曜日) 13時から17時

【会 場】中央区・ 勝どき区民館 参加者14名 リモート参加6名

第一部 【研究発表と懇談会】

1. 研究発表 題名： 「女王の都する所」 橘高 修氏

説明主旨：八王子セミナー2025の参加者の向けて、テーマ「卑弥呼はどこにいたか」の論点整理  
そして、言いたいことは、“「大和」ではなかった”事

- (一) 発表項目：  
①Ⅰ・倭人伝行程文の限界、Ⅱ・複数回にわたる帯方郡使の訪問、Ⅲ・二分される行程文、Ⅳ・「自女王国以北」、Ⅴ・皆鯨面文身」、おわりに（六つの論点）。
- (二) 論点：  
Ⅰ①「千余里」は正確か、②距離表示が正確でも末盧国の場所は不明、③末盧国から伊都国は北東方向。  
Ⅱ①伊都国での出入検査、②女王国と帯方郡間に頻繁な交流。  
Ⅲ①里程行程文に日程行程文が直接接続、②日数での距離表示は倭人からの伝聞による、③戸数表示も同じ。  
Ⅳ①「自女王国以北」は二か所に記載、②卑弥呼のいた場所が「大和」ならその北は京都府だが、その北海上に杵岐・対馬はない。③従って「大和説」は否定される。  
Ⅴ①『古事記』の証言、②神武記の伊須気余理比売説話、③彼女は鯨面＝「鯨（さ）ける目を見たことがなかった、④「女王之所都」はやはり九州。  
Ⅵ①千余里は約百km、②（結論）女王の都する所が九州内のどこにあったか特定できないが、大和ではないことは証明できた。
- (三) 質疑・感想等：  
①古田先生の提唱される説とは異なる解釈が披露された（特に里程と日程記事を直接連結、末盧国の位置等）ため、会場から様々な質問と意見が出されました。  
②説明・配布資料は要領よくまとめられ、発表も丁寧でした。  
③ただ、里程問題の最重要記述である「自郡至女王国萬二千余里」に全く言及されなかったことに強い違和感を覚えました。（発表45分、質疑65分）

2. 懇談会  
仙台から参加の広幡文氏が資料を配布して、①万葉集の京師と②日本書紀と古事記の概要を説明されました。  
①では先月の読書会に関連して調べた結果を示され、  
②では農業・養蚕・畜産の成立説話と朝鮮語との関連から、『記』は『書紀』よりも編集年代が後年、との可能性を引き出されました。（10分）

第二部 【勉強会と読書会】

1. 勉強会 題名：「古田武彦著作集」から 新保 高之氏  
『盗まれた神話』 その十

- (一) 内容：  
最終回なので、全体のまとめとして、①全体構成と要点を再確認すること、②補章「神話と史実の結び目」の要点を抽出すること。
- (二) 要点：  
①はじめに、第一～第十四章、結びにおける論述の概要を解説、  
②補章を構成する九節についてその要点を説明。ただし、うち二節は『続日本紀』と『万葉集』に関する事項だったため、説明を省略された。
- (三) 質疑等：  
質問や意見が少し出ましたが、特に取り上げるほどではないように感じました。（説明・質疑40分）

2. 読書会「岩波文庫『日本書紀』持統紀」 その十 新保 高之氏

- (一) 対象事項：  
持統紀全体のまとめ。
- (二) 解説内容： 以下の事項の説明がありました。  
①通説学者がみる「持統天皇紀」の特色、②「持統紀」の重大な出来事（10件）と重要施策（5件）、  
③「持統紀」の記事分類（9項目）の説明と分類一覧表の提示、③記事分類から見えてくる「持統紀」の特徴を解説。
- (三) 質疑等：  
①「物品賜与」や「行幸（目的不明）」に関する記事が多いのは、バブル期だったのではないかと、との意見が出て、それについて他の方々から、  
②つまり、九州王朝が衰退し近畿天皇家が実力を増していった。  
③この結果、地方の特産物などが近畿に集まった。  
④証拠は、この時期の地方からの産物に関する木簡が近畿で多数出している、などの理由が示されました。（説明質疑35分）

発表資料をご希望の方下記メールで事務局へご請求下さい  
ご意見・ご質問はメールで【[info@tokyo-furutakai.com](mailto:info@tokyo-furutakai.com)】までお寄せ下さい。